

# 日本での アドボカシー 活動の報告

10月以降、現地での活動に並行して様々な活動を続けてきました。  
ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

- ・テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアで、現地の様子と人々の生の声を発信
- ・ドキュメンタリー映画上映への協力（「素顔のガザ」「ガーダ・パレスチナの詩」「ぼくたちはみた サムニ家の子どもたち」など）
- ・イベント、小・中学校、高校、大学の授業などで、現地の様子と人々の生の声を伝える
- ・オンラインその他での情報提供
- ・パレスチナ刺繍や関連グッズの販売
- ・イベントなどへのパネルなどを提供
- ・生協や教会、地域でのお話会への出張

1月末に日本政府が突如、国連パレスチナ難民救済事業期間（UNRWA）への資金拠出を停止するという発表をして以降、パレスチナ現地で活動をする日本のNGO各団体と中東研究者有志は共同で、与野党の国会議員や外務省にロビイングもしてきました。

少なくない数の国会議員が現状を憂慮し、停戦の必要性やUNRWAの重要性を理解していることを知って安堵しています。ようやく4月になって資金拠出が再開されました。また超党派の人道外交の議員連盟が発足予定と聞いていますが、国会での停戦決議やパレスチナの国家承認なども今後の課題です。また、各地の地方議会では、停戦決議があがっています。

## ヨルダン川西岸の 教育事業



ヨルダン川西岸では、難民キャンプや村でイスラエル軍や入植者によるパレスチナ住民に対する攻撃や暴行事件が頻発しています。10月以降の7か月で480人が殺害され、そのうち116人が子どもです。また5000人以上が負傷するという緊迫した状況が続いています。

このヨルダン川西岸の南部ヘブロン市で、公立小学校の理科室の整備や実験機材などの提供、教師の研修などを実施しています。

## レバノンの 保健事業と 教育事業



「20世紀と比較しても最悪」といわれる経済状況の悪化が5年以上続くレバノンは、多くの難民を抱えて疲弊しています。レバノンにはシリア難民のほかに20万人のパレスチナ人が暮らしていて、差別と貧困にあえいでいます。また、イスラエルとレバノンのシーア派組織のヒズボラーが交戦をし、レバノン南部ではイスラエルの空爆が続き9万人の国内避難民も出ています。

当会では、長年レバノンのパレスチナ難民キャンプでの歯科や児童精神科などの保健支援を継続しています。23年度からはインクルーシブ教育支援として、障がいのある子どもたちや難民の子どもたちの教育環境の整備を実施しています。また、パレスチナ人シリア難民への物資配布も実施中です。

## トルコ大地震の 被災者支援



23年2月のトルコ東南大地震の被災地で、障がい者と高齢者の支援を実施しています。23年度はバリアフリーのトイレ・シャワーユニットを「コンテナシティ」と呼ばれる仮設住宅地に設置しましたが、24年に入ってから、仮設住宅に暮らす障がい者と高齢者家庭を看護師や心理士、ソーシャルワーカーが訪問して、必要な介護やアドバイスをしています。また車いすや補聴器などを提供しています。

※レバノンの状況と支援については、7月13日に対面での報告会を予定しています。  
ヨルダン川西岸とトルコの支援事業については、8月にオンラインでの報告会を予定しています。

ヨルダン川西岸、レバノン、トルコでの事業を  
継続しています。  
今号では、ガザでの人道危機への対応を中心に報告していますが、  
他の地域での支援を継続しています。